

学校名：氷取沢高校

担当教科：家庭科

氏名：荒井 智子

## 1. 今回の研修における目的やねらい

今までに、いわゆる観光地をめぐる海外旅行というものを体験したが、それはその国の人々の生活を知ることとは違う。観光地ではなく、そこに生きる人々の生活の場を見聞したり体験することで、その国の日常に近い姿を少しでも知ることができ、そこから異文化理解、国際理解や開発教育がスタートするのではないかと考え、この研修への応募を決めた。今回の研修の最大の目的は、このスタート地点に立つことにあると思っている。そして、まずは、国際理解あるいは国際理解教育の本質を私なりに考えてみたいと思う。そして、得られた知識、情報、私なりの考え方を、ますますグローバル化していく私達の生活を題材とする高等学校家庭科の授業、「国際教育」をテーマとする本校の「総合的な学習の時間」、本校ボランティア部活動の具体的な取り組みに活かしていきたいと考えた。

## 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

現地において、JICA職員や現地通訳の方にはすべての場面で、特に言葉については本当にお世話になった。それでも、言葉の壁は大きく厚く、その壁故に、もう一歩前にでていけない自分を感じたりもした。そのような状況ではあったが、私の中には研修前には無かったあるものが確実に生まれている。それは、うまく表現するのが難しいのであるが、私にとっては比較的重く暗いイメージにつながるものであって、たとえば、それは、貧困であったり、矛盾であったり、無力感であったり、苛立ちであったり、悲しみであったり、あるいはそれらが複合的に絡み合ったりしたものである。そして、それを具体的に解きほぐしていくことで、国際理解や国際理解教育の本質についての私なりの回答が見えてくるような気がする。当初考えていた「スタート地点に立つ」という研修の目的は達成されたと思う。また、私の日々の教育活動に関する様々な素材が提供されたと思う。教材とするには、まだまだ整理する必要があるが、それは今後の私自身の課題となる。

## 3. カンボジア国から学んだこと

カンボジアの内戦が終了して 18 年が経過しているといわれるが、教育・社会・産業等々あらゆる部門の復興が遅れている原因が、社会を牽引していく層の喪失によるものであることを、特に日本の第二次世界大戦後の復興状況との比較から実感した（単純に比較できるものでもないが・・・）。この国の現在を知る上で、内戦に関する歴史と実状を把握することはキーポイントだと思った。他の国や社会を理解する上でも歴史教育の重要性について認識を新たにしたい思いである。

カンボジアは日本を初め多くの国や団体から、様々な援助を受けていることも学んだ。多様な援助の形の中には、必ずしも、当該国にとって有意義なものばかりではないという事例もいくつか確認できた。このことは、本校ボランティア部の生徒たちと「ボランティア」についてディスカッションする際、是非とも紹介したい事例である。その場の厳しい状況を救うための援助から、ゆくゆくは国の自立の手がかりとなるような援助等と、援助の幅も広いことを学んだ。

最も嬉しい発見は、カンボジア日本友好学園で出会った高校生皆さん一人一人が、将来への具体的

な希望をもち、国の発展のために尽くしたいという思いをもっていることが確認できたことである。そして、現在の学校での学習活動も、将来につながる学習であることを強く意識していることに大変感銘を受けた。

#### **4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか**

今回の研修は、今後の私の教育活動全般にずっと影響を与えるものだと思うが、当面は次のような活動を計画していきたい。

本校で放課後開催の「国際理解講座」で報告

：ここでは「私のカンボジア旅行記」といったテーマで、私が見たカンボジアという国を紹介する流れという予定である。(今回が第3回となる。なお、第1回は中国人の教員補助者が担当し、テーマは「中国」、第2回はニューヨーク在住経験のある教員補助者が担当し、テーマは「ケニア」だった。)特に、プノンペンからプレイベーンに移動したときに車窓から見た風景を中心にレポートしようと思う。

家庭科授業(衣生活領域)で活用

：衣服の素材として、伝統的な手作りのクメール織を先端技術を駆使した繊維製品と対比させながら紹介し、それらの特徴を生かした繊維製品の商品開発や商品活用を題材としたい。なお、その際、伝統の森を手がけた日本人の森本氏の紹介とあわせて「フェアトレード」の意義を確認する授業としたい。

家庭科授業(食生活領域)で活用

：例えば「バナナ」という食品を取り上げながら、輸入食品としての歴史に目をむけ、東南アジア諸国との関係性や日本の食料自給率の今後の方向性に目が向くような流れを考えたい。

家庭科授業(保育領域)で活用

：児童労働やカンボジア児童生徒の就学率の実態から、「子どもの権利条約」の内容をじっくり読み解く内容を考えたい。「子どもの権利条約」を扱う際、日本の実態からでは理解しにくい観点がいくつかあるためである。

家庭科授業(環境領域)で活用

：ゴミが散乱する街の様子や資源回収の実態から、資源循環型社会形成に向けた施策をカンボジアの国に提案するような授業を考えたい。

「総合的な学習の時間」で活用

：本校1学年では「世界で活躍する日本人」をテーマとして探究学習に取り組んでいるが、その日本人としてクメール織の森本氏を紹介することができる。

ボランティア部活動で活用

：現在ボランティア部の活動の大きな柱として「国際ボランティア」をあげているが、カンボジアで確認してきた「援助・支援」の事例を紹介しながら、今後、部として取り組む「国際ボランティア」の在り方を部員と共に討論したい。

特に、授業については参加型授業となるような手法を取り入れて展開を考えたい。

#### **5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案**

異校種や外国籍の生徒を多く受け入れている学校の実状を、同じ参加者の皆さんから知ることができ

た。同じ県内、市内でありながら、今までその実態についてあまり具体的な情報として把握できていなかった。

また、今回のカンボジア行きが、よくある観光旅行商品のようにアンコール遺跡群の見学と買い物で終わっていたら、私のカンボジアに対する印象は全く違っていただろうと思う。JMASの皆さんと農村のあぜ道を歩き、カンボジア日本友好学園の竹のベッドで一夜を過ごし、溜め水で水浴びをした・・・等々という体験の一つ一つが大きな驚きであり、大切な気づきにつながったと思う。貴重な体験をさせていただいたことに深く感謝したい。

なお、参加者各人はそれぞれのバックグラウンドをもっており、各訪問先に期待するものも異なるのは当然のことなので、むしろ各訪問地の訪問目的はJICA主導でもっと明確にいただいてもよいのではないかと思う。そして、参加者はそれをベースとして各自の目的を果たしていけばよいのではないだろうか。

## 6. その他研修全般を通じての感想・意見など

事前に、宿泊部屋の人数の希望を尋ねられ、さほど気もしていなかったが、個室対応にしていたことは、結果としてありがたかった。(10日間という長丁場の研修なので、やはり、疲れる。)

一つ一つの研修先で受け止めるべきものが、実に重い。他の参加者との意見交換や質問確認などが更にできると、それぞれの訪問が深まると思う。

また、今回の派遣国のカンボジアの場合だったら、内戦の実状などについて、もっと事前に詳しく予習できていたらよかったと思う。少なくとも、いくつかの参考書籍名等を早めに情報提供していただくとありがたかった。

## 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

私が来年、再びこの研修に参加できるとしたら、

その国の歴史、特に近現代史の大筋を理解しておく。

訪問先について、その概略を下調べしておき、自分にとっての訪問目的を設定しておく。

衣類の洗濯のタイミングを考慮して荷造りをする。

などといった点を事前に考慮できたらと思う。